



Woonerf Inc.

2025年GBJシンポジウムにおける 廃棄物に関するレポート

TRUE Event認証の観点から

2025年10月29日

株式会社ヴォンエルフ

ZERO Waste(廃棄物ゼロ)とは？

持続可能な循環を目指し、廃棄物や有害物質を排除し、**資源を節約・回収しながら、燃焼や埋め立てを行わないことを意味する。**

ZERO Wasteを実現することで、土地・水・空気への排出をなくし、**地球や生態系、人間の健康を守る**ことが可能になる。



TRUE 認証とは？

TRUE (Total Resource Use and Efficiency) は、施設が固形廃棄物を最小限に抑え、**資源を最大限に効率よく利用**しているかどうかを評価する。

★直近の12ヶ月間において、**90%転用率**の達成

90%以上の廃棄物が埋立、焼却に回わず、削減、返却、再利用、再製造、リサイクル等により転用される。

★5つの必須要件を満たし、81Credit pointsのうち31以上を獲得し、Certified～Platinumまでランキングされる。

ZERO Wasteを目指すための評価システム

TRUE認証の取得事例

・オフィス、病院、学校、博物館、スポーツイベント、物流、ホテル、工場、など業種問わず、**32か国・480以上**の施設が認証を取得した。



TRUE認証の取得メリット

- **第三者機関(GBCI)認証**により、Green washや不正の主張から施設を守る
- SDGs 17のカテゴリのうち、14項目をカバーしており、**SDG s 項目への貢献**が可能
- 認証取得により、不動産ポートフォリオを評価する**GRESBにて加点可能**
- **LEED ZERO Waste 取得可能**



Woonerf Inc.

※本資料の内容に関する一切の権利につきましては(株)ヴォンエルフに帰属し、本資料の全部または一部を当社の承諾なしに公表または第三者に共有することはご遠慮ください。

Contents

- 01 実施内容
- 02 廃棄物の発生状況
- 03 2025年発生量 vs 2024年発生量
- 04 2025年実施した廃棄物削減対策
- 05 TRUE Event認証の視点から評価



01 実施内容

目的：本シンポジウムにおける廃棄物監査を、TRUE Event認証の観点を踏まえ模擬的に実施する。今後のシンポジウム開催する際に、廃棄物削減につながる対策を検討する。

イベント概要：

イベント開催日（2025年10月16日、13:00-18:30）

会場名：神田明神ホール（1F,2F）

人数：参加者約170人、スタッフ31人

実施手順：

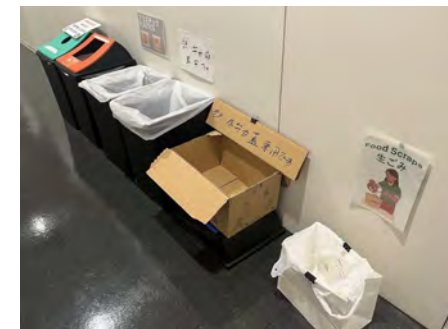
1. 企画段階に、去年の実施状況に基づいて、Wが削減対策を提案する。
2. 前日会場と控室にて、Wが適切な場所に各種類のごみ箱を設置する。
3. 会場と控室にて、来場者と運営スタッフにゴミ捨て時の分別をしてもらう。
（燃えるゴミ、ペットボトル、缶、紙類、プラスチック、段ボール、生ゴミ）
4. Wが各廃棄物の重量を計測する。
5. 廃棄物を会場とWのオフィスにて、リサイクルやコンポストなどで処理する。
6. Wが結果を分析し、改善点を提案する。

会場のゴミ箱設置様子



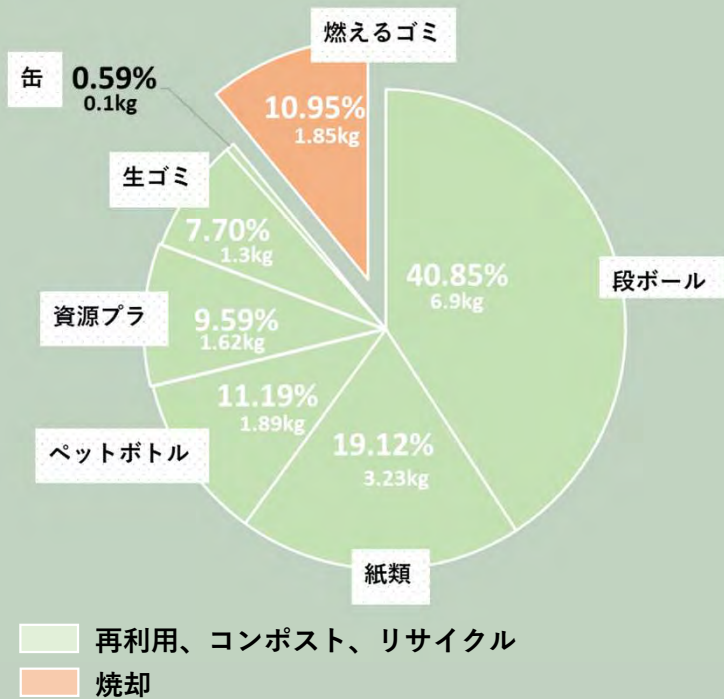
Woonerf Inc.

スタッフ控室の廊下のみゴミ箱設置



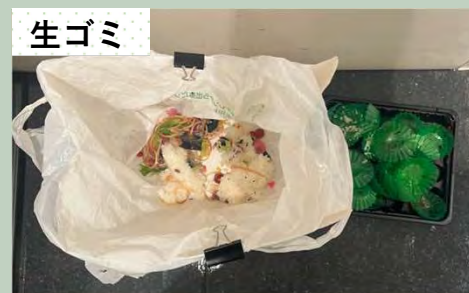
※本資料の内容に関する一切の権利につきましては（株）ヴォンエルフに帰属し、本資料の全部または一部を当社の承諾なしに公表または第三者に共有することはご遠慮ください。

02 廃棄物の発生状況



廃棄物総量 16.89kg

リサイクル率 89.05%



02 廃棄物の発生状況－詳細

廃棄物種類	発生源	詳細	処理方法	(kg)	%
段ボール	運営側	来場者に配るお菓子、ドリンク、スタッフのお弁当の輸送用（合計17枚）	リサイクル	6.9	41%
紙類	運営側	お菓子配送時についた百貨店手提げ袋（合計12枚）	再利用*	0.56	3%
		お菓子輸送時の緩衝材、包装紙	リサイクル	1.05	6%
		お菓子の包装箱	リサイクル	1.52	9%
	会場側	プリンター紙	リサイクル	0.1	1%
ペットボトル	運営側	スタッフ持参したペットボトル	リサイクル	0.25	1%
	会場側	Party時に配ったドリンク、来場者持参したドリンク	リサイクル	1.64	10%
資源プラ	運営側	発泡スチロール、きれいな弁当箱、お菓子包装プラなど	リサイクル	1.52	9%
	会場側	お菓子個包装紙、ドリンクのラベル、プラスチックカップなど	リサイクル	0.1	1%
生ゴミ	運営側	弁当の食べ残し	コンポスト*	1.3	8%
缶	会場側		リサイクル	0.1	1%
燃えるゴミ	運営側	汚い弁当箱	焼却	1.1	7%
		割り箸、弁当のプラスチックカップなど	焼却	0.4	2%
	会場側	汚いお菓子個包装紙、ティッシュ、汚い紙類など	焼却	0.35	2%
運営側小計		開催準備に伴い発生した廃棄物（資材運搬、スタッフの飲食など）		14.6	86%
会場側小計		来場者により発生した廃棄物		2.29	14%
合計				16.89	100%
リサイクル率				89.05%	

* スタッフが紙の手提げ袋を持ち帰って、再利用する。

* Woonerfが生ゴミを持ち帰って、オフィスのコンポスト箱で処理した。

シンポジウムの準備過程で発生した廃棄物は、全体の86%を占めており、4割が資材運搬用に使用された段ボールであった。

また、お菓子の輸送時に使用された緩衝材や包装箱などの紙類も、全体の約2割を占めた。

03 2025年発生量 vs 2024年発生量

廃棄物種類	2025年			2024年			2024年比べ	
	(kg) 【A】	%	処理方法	(kg) 【B】	%	処理方法	削減量 (kg) 【C】 = 【A】 - 【B】	削減率 % = 【C】 / 【B】 *100
段ボール	6.9	40.85	リサイクル	8.5	36.23	リサイクル	-1.6	-18.82
紙類	3.23	19.12	リサイクル 再利用	2.66	11.34	リサイクル	0.57	21.43
ペットボトル	1.89	11.19	リサイクル	0.36	1.53	リサイクル	1.53	425.00
資源プラスチック	1.62	9.59	リサイクル	0.31	1.32	リサイクル	1.31	422.58
生ゴミ	1.3	7.70	コンポスト	2.2	9.38	焼却	-0.9	-40.91
缶	0.1	0.59	リサイクル	3.63	15.47	リサイクル	-3.53	-97.25
燃えるゴミ	1.85	10.95	焼却	6.29	24.72	焼却	-4.44	-70.59
合計	16.89	100.00		23.95	100.00		-7.06	-29.48%
リサイクル率			89.05%			65.90%		23.15%

資源ゴミの処理方法は、リサイクル以外、再利用とコンポストが増加して、焼却へ回す廃棄物がさらに削減された。

全体発生量は昨年と比較して約 30% の削減率が達成された。リサイクル率は89.05% となり、昨年の 65.9% から大きく向上した。



03 2025年発生量 vs 2024年発生量

廃棄物種類	2025年			2024年			2024年比べ	
	(kg) 【A】	%	処理方法	(kg) 【B】	%	処理方法	削減量 (kg) 【C】 = 【A】 - 【B】	削減率% = 【C】 / 【B】 *100
段ボール	6.9	40.85	リサイクル	8.5	36.23	リサイクル	-1.6	-18.82
紙類	3.23	19.12	リサイクル 再利用	2.66	11.34	リサイクル	0.57	21.43
ペットボトル	1.89	11.19	リサイクル	0.36	1.53	リサイクル	1.53	425.00
資源プラスチック	1.62	9.59	リサイクル	0.31	1.32	リサイクル	1.31	422.58
生ゴミ	1.3	7.70	コンポスト	2.2	9.38	焼却	-0.9	-40.91
缶	0.1	0.59	リサイクル	3.63	15.47	リサイクル	-3.53	-97.25
燃えるゴミ	1.85	10.95	焼却	6.29	24.72	焼却	-4.44	-70.59
合計	16.89	100.00		23.95	100.00		-7.06	-29.48%
リサイクル率			89.05%			65.90%		23.15%
転換率*	$= \frac{\text{リサイクル} + \text{再利用} + \text{コンポスト} + \text{削減量}}{\text{リサイクル} + \text{再利用} + \text{コンポスト} + \text{削減量} + \text{焼却}}$						$= \frac{6.9+3.23+1.89+1.62+1.3+0.1+1.6+3.53+4.44+0.9}{6.9+3.23+1.89+1.62+1.3+0.1+1.6+3.53+4.44+0.9+1.85} = 93.23\%$	

* 転換率に関する詳細は、最後のスライドをご参照ください。

2024年の実績をベースラインとして、段ボール、可燃ごみ、生ごみの削減量を含めて評価した結果、
今年のシンポジウムでは転換率が90%以上を達成し、TRUE Event認証の必須要件を満たすことができた。



04 2025年実施した廃棄物削減対策

	2025年			2024年			2024年比べ	
廃棄物種類	(kg) 【A】	%	処理方法	(kg) 【B】	%	処理方法	削減量 (kg) 【C】 = 【A】 - 【B】	削減率 % = 【C】 / 【B】 *100
段ボール	6.9	40.85	リサイクル	8.5	36.23	リサイクル	-1.6	-18.82
紙類	3.23	19.12	リサイクル 再利用	2.66	11.34	リサイクル	0.57	21.43
ペットボトル	1.89	11.19	リサイクル	0.36	1.53	リサイクル	1.53	425.00
資源プラスチック	1.62	9.59	リサイクル	0.31	1.32	リサイクル	1.31	422.58
生ゴミ	1.3	7.70	コンポスト	2.2	9.38	焼却	-0.9	-40.91
缶	0.1	0.59	リサイクル	3.63	15.47	リサイクル	-3.53	-97.25
燃えるゴミ	1.85	10.95	焼却	6.29	24.72	焼却	-4.44	-70.59
合計	16.89	100.00		23.95	100.00		-7.06	-29.48%
リサイクル率			89.05%			65.90%		23.15%

昨年は全セッションにおいて、お茶・コーヒー・ミネラルウォーターなどの飲料を提供していたが、一部飲み残しが発生したことを受け、
 本年は講演中のドリンク提供を控え、Party時のみラベルレスの410mlのお茶を提供した。
 これにより、ドリンクの注文量が削減され、輸送時に発生する段ボールの量も削減された。

昨年は缶ボトルの飲料を提供したが、今年はペットボトルに変更したため、缶の使用量はほぼゼロとなった。また、ペットボトルは缶に比べて軽量であることから、ペットボトルの総量も、昨年の缶の発生量より少なく抑えられた。

さらに、Party終了時に、来場者に対してペットボトルを捨てる際に飲み残さないように呼びかけを行い、きれいな状態で捨ててもらった。その結果、廃液の混入を抑制できた。



04 2025年実施した廃棄物削減対策

	2025年			2024年			2024年比べ	
廃棄物種類	(kg) 【A】	%	処理方法	(kg) 【B】	%	処理方法	削減量 (kg) 【C】 = 【A】 - 【B】	削減率 % = 【C】 / 【B】 *100
段ボール	6.9	40.85	リサイクル	8.5	36.23	リサイクル	-1.6	-18.82
紙類	3.23	19.12	リサイクル 再利用	2.66	11.34	リサイクル	0.57	21.43
ペットボトル	1.89	11.19	リサイクル	0.36	1.53	リサイクル	1.53	425.00
資源プラスチック	1.62	9.59	リサイクル	0.31	1.32	リサイクル	1.31	422.58
生ゴミ	1.3	7.70	コンポスト	2.2	9.38	焼却	-0.9	-40.91
缶	0.1	0.59	リサイクル	3.63	15.47	リサイクル	-3.53	-97.25
燃えるゴミ	1.85	10.95	焼却	6.29	24.72	焼却	-4.44	-70.59
合計	16.89	100.00		23.95	100.00		-7.06	-29.48%
リサイクル率			89.05%			65.90%		23.15%

去年は、スタッフ用のお弁当箱が分別されず、すべて燃えるゴミとして処理された。
今年、汚れた弁当箱ときれいな弁当の蓋を分けて回収するBOXを設置したことで、資源プラスチックの収集量が増加し、燃えるゴミの量が削減された。

また、去年のPartyではお菓子に加えてケーキも提供したため、使い捨てのプレートやフォーク、ナプキンなどが大量に使用され、燃えるゴミが多く発生した。

今年、使い捨て食器の使用を避けるため、個包装のお菓子のみを提供し、燃えるゴミの発生を抑えることができた。

これらの取り組みにより、燃えるゴミの総量は昨年と比較して約70%削減された。



04 2025年実施した廃棄物削減対策

	2025年			2024年			2024年比べ	
廃棄物種類	(kg) 【A】	%	処理方法	(kg) 【B】	%	処理方法	削減量 (kg) 【C】 = 【A】 - 【B】	削減率 % = 【C】 / 【B】 *100
段ボール	6.9	40.85	リサイクル	8.5	36.23	リサイクル	-1.6	-18.82
紙類	3.23	19.12	リサイクル 再利用	2.66	11.34	リサイクル	0.57	21.43
ペットボトル	1.89	11.19	リサイクル	0.36	1.53	リサイクル	1.53	425.00
資源プラスチック	1.62	9.59	リサイクル	0.31	1.32	リサイクル	1.31	422.58
生ゴミ	1.3	7.70	コンポスト	2.2	9.38	焼却	-0.9	-40.91
缶	0.1	0.59	リサイクル	3.63	15.47	リサイクル	-3.53	-97.25
燃えるゴミ	1.85	10.95	焼却	6.29	24.72	焼却	-4.44	-70.59
合計	16.89	100.00		23.95	100.00		-7.06	-29.48%
リサイクル率			89.05%			65.90%		23.15%

昨年は、スタッフのお弁当の食べ残しを回収する際に、ドレッシングのパックやアルミカップ、ウェットティッシュなどの付属品が混入していたため、焼却処理した。

今年は、生ごみと付属品を分別できる仕組みが導入されたことで分別率が向上し、廃棄物の発生量が削減された要因の一つと考えられる。



2025年

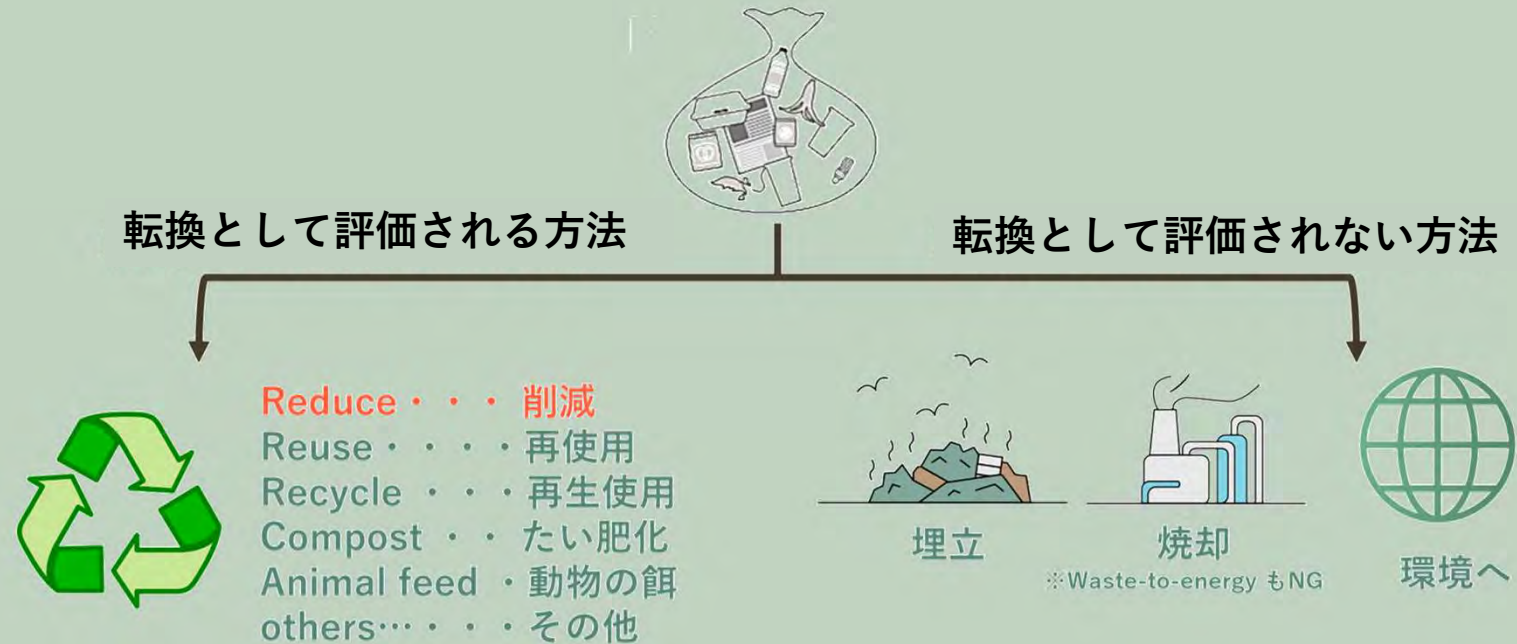
05 TRUE Event認証の視点から評価

各段階	実施した削減対策	結果	TRUE評価項目
開催前の企画	Party時に提供する飲食を配慮して、缶からラベルレスペットボトルに変更し、ドリンクと食べ物の注文量を減らした。	段ボールや缶、燃えるゴミの発生量が削減された。	REDUCE、LEADERSHIP
	会場エリアと運営スタッフの控室エリアでは、それぞれゴミ箱の設置場所を一箇所に集約した。これに伴い、もともと設置されていたゴミ箱を撤去した。	廃棄物収集の手間を軽量化し、ゴミ袋の無駄遣いも控えた。	REDESIGN、REDUCE LEADERSHIP
	スタッフのお弁当による生ゴミとプラスチック箱が発生することを予測し、弁当箱、生ゴミの分別箱をより細分化した。	資源プラスチックと生ゴミの分別率が向上した。	REDESIGN、REDUCE、 COMPOST
開催中の運営	Party時終了時に、来場者に対してペットボトルを捨てる際に飲み残さないように呼びかけを行ない、来場者の協力をもらった。	ペットボトルに廃液の混入を抑制した。	TRAINING
開催後の処理	百貨店手提げ袋をスタッフに持ち帰ってもらい、再利用された。	リサイクルの先に、再利用した。	REUSE
	生ゴミを持ち帰って、コンポスト箱に入れて、堆肥処理した。	燃えるゴミの量が削減された。	REDUCE、COMPOST

昨年の経験を踏まえ、さまざまな削減対策を実施した結果、TRUE Event認証の必須要件である転換率90%以上を達成することができた。さらに、加点対象となる評価項目もいくつか満たしているため、次のシンポジウムにおいてTRUE Event認証の取得を目指す場合、認証取得の可能性は高いと考えられる。



TRUE認証における転換率



$$\text{転換率 (Diversion rate)} = \frac{\text{転換量 (Reduce, Reuse, Recycle, Compost, others)}}{\text{総発生量 (転換量 + 非転換量)}} \geq 90\%$$



TRUE認証に関する問い合わせ
nakayama@woonerf.jp
tei@woonerf.jp

